

特集

シンポジウムの閉会式でありさつするモンゴル科学アカデミーのバースボルド博士(左と、壇上右から)ユン・ナム・リー博士(韓国)、東洋一博士(福井県立恐竜博物館特別館長)、フィリップ・カーリー博士(カナダ)



7月末にモンゴルへ行って来 ア恐竜国際シンポジウム」での発表が目的。ウランバートルは涼しくて気持ちよかったです。

注目される「アジア恐竜国際シンポ」

岡山理科大教授・石垣忍

恐竜調査隊が行く



世界の研究者100人超集う

さて、研究者の発表は、大きなホールで写真や図をスクリーンに映し出しながら説明する「口頭発表」と、大きな紙に自分の研究成果をまとめて貼り出し、その前で議論をする「ポスター発表」の2種類があります。今回は35本の口頭発表と24本のポスター発表がありました。アジアの恐竜を研究している学者が世界から100人以上集まって熱気がむんむん。ちょっとびっくりしました。「モンゴルで開催」ということもあって、岡山理科大学からは10人が参加しましたよ。

口頭発表の持ち時間は20分。発表は英語。私はモンゴルの恐竜足跡化石のことを18分しゃべって質問を2分受けました。岡山理科大学の大学院生も頑張って口頭発表しましたよ。

シンポジウムの内容はとても興味深いものでした。アジアの恐竜研究が世界の最先端を走り、恐竜の常識をぬりかえながら進んでいることを強く感じました。そのパワーを象徴するのがアジアの若い研究者です。本当にみんな頑張ってアジアの恐竜研究を世界に発信しているのです。感動しました。そのうち読者の皆さんの中からもこのシンポジウムで発表する人が出てくるかもしれませんね。期待しています。

豆知識

2013年、アジアの恐竜研究発展とその普及や、若い研究者の育成を目的に「アジア恐竜協会」という組織が発足しました。この組織が2年ごとに国際シンポジウムを開いています。今回のシンポジウムは4回目、モンゴルは開催国として大変な力の入れようでした。



シンポジウムのポスターの前で